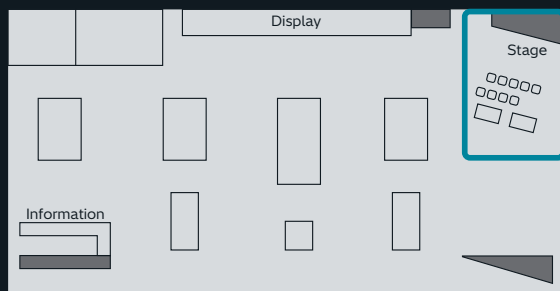


プレゼンテーション



プレゼンテーション
コーナー

要 旨

A 検査データを見るから見るへ

「検査結果をどう解釈し、どう伝えるべきか。」そんなお悩み、ありませんか？ 病態アセスメントシステムは、日常検査データを用いた病態解釈から臨床現場への報告までをサポートします。本発表では、検査室の気づきを診療へつなぐ病態アセスメントシステムの機能をご紹介します。

B 反応過程近似解析ツール MiRuDa のご紹介 ～反応過程の解析で、検査結果の信頼性向上とデータ確認業務の省力化を～

反応過程近似解析ツールMiRuDaに、2つの新機能を追加しました。多くのお客様からご要望をいただいていたLIS連携機能と、33種類のルールで反応の変動を捉える新アルゴリズムです。これらの機能により、データ確認業務の省力化と、個々の検査結果の信頼性向上に貢献します。

C 検査室の声をかたちに ～日立自動分析装置のご紹介とLABOSPECT 006 α の機能について～

LABOSPECT 006 α はこれまで培ってきた技術と経験に、検査室の声を「プラスアルファ」し、ユーザビリティを追求しました。本発表では、検査の信頼性に貢献する日立の自動分析装置と更なる機能性を追求したLABOSPECT 006 α をご紹介します。

D クリティカルバリュー（パニック値）運用における課題と検査システム活用例

クリティカルバリュー（パニック値）対応は、患者安全を支えるために欠かせない検査室業務です。運用においては、結果の妥当性確認、医師への迅速な連絡、対応状況の記録・確認など、多くの作業を伴い、確実な運用が求められます。本発表では、検査システムLavoluteの最新バージョンを活用した運用支援の事例を挙げ、より効率的かつ確実なパニック値管理の実現方法についてご紹介します。

E 機器データが切り拓く臨床検査の可能性 -日立ハイテクがデジタルでめざす「予測」「連携」「精度」の高度化-

お客様の声をもとに、臨床検査室におけるミッションクリティカルな課題として、機器故障による測定の中断、ワークフロー複雑化による業務効率低下、異常値原因の特定困難があると考えます。本発表では、機器データをデジタルおよびAIで活用し、「予測」「連携」「精度」の高度化を実現する日立ハイテクのソリューション構想をご紹介します。検査の継続性と信頼性を高め、「医療を止めない」検査室の実現をめざします。

スケジュール

※各プレゼンは15分程度になります。

10月8日(木)

11:00～	検査データを見るから見るへ	A
13:00～	反応過程近似解析ツール MiRuDa のご紹介 ～反応過程の解析で、検査結果の信頼性向上とデータ確認業務の省力化を～	B
14:00～	検査室の声をかたちに ～日立自動分析装置のご紹介とLABOSPECT 006 α の機能について～	C
15:00～	クリティカルバリュー（パニック値）運用における課題と 検査システム活用例	D
16:00～	機器データが切り拓く臨床検査の可能性 -日立ハイテクがデジタルでめざす「予測」「連携」「精度」の高度化-	E

10月9日(金)

10:00～	検査室の声をかたちに ～日立自動分析装置のご紹介とLABOSPECT 006 α の機能について～	C
11:00～	機器データが切り拓く臨床検査の可能性 -日立ハイテクがデジタルでめざす「予測」「連携」「精度」の高度化-	E
14:00～	クリティカルバリュー（パニック値）運用における課題と 検査システム活用例	D
15:00～	反応過程近似解析ツール MiRuDa のご紹介 ～反応過程の解析で、検査結果の信頼性向上とデータ確認業務の省力化を～	B
16:00～	検査データを見るから見るへ	A

プレゼン内容やスケジュールは予告なく変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。